



◆ 「モザンビーク国気象観測及び予警報能力向上プロジェクト」について

振興部では、関係機関の要請に基づき海外への技術協力を実施しております。

「モザンビーク国気象観測及び予警報能力向上プロジェクト」(JICA(国際協力機構)委託)については、本プロジェクトの一環として、平成27年12月1日から11日間、気象庁観測部気象測器検定試験センター(つくば市)において、モザンビーク国気象局本部職員4名を研修員として、気象測器検定試験センターの協力を得て、気象測器の検定・校正、移動準器と現地観測機器の比較に関する技術研修を実施しました。

モザンビーク国における気象測器に関する技術については、国際空港等においては気象測器の校正や確認が定期的に行われていますが、基準器の精度確保、地方の観測所における気象観測の精度については、十分ではないところも多く見られることから、気象防災の基本となる「正確な観測」の実施のために不可欠な気象測器の校正及び比較技術に関する技術の向上が重要な課題となっています。

このようなことから、本研修においては気象観測及び気象測器全般に関する技術の向上を図るため(日本からの技術移転)、実際に気象測器を用いた実地研修を行ないつつ、防災情報の発信のための観測・予報業務実施体制について、気象庁予報部及び観測部関係者との幅広い意見交換や技術交流が行なわれました。

今後は本研修の成果の確認・技術の定着をより推進するため、本年2月からモザンビーク国において、当センター職員による現地技術フォローアップ研修を実施するとともに、平成28年度には気象庁職員による現地フォローアップ研修が予定されており、気象観測及び予警報能力の向上のための技術協力が続けられる予定です。

なお、本研修については、研修の実施状況等のほか、気象庁が行う海外技術協力について新聞社の取材があり報道されました(日本経済新聞、平成28年1月4日掲載)。



左：氷点(0℃)検査用氷の作成



上：温度計の取り外し



上3枚：研修生による氷点を用いたの温度計検査

液相を用いた5℃から50℃までの5℃毎の温度計検査



左：気象庁温度計基準器の紹介

右：アメダス用白金抵抗温度計の紹介

左下：日本経済新聞の取材時の様子



気圧計の校正実習



左：
組み立て終わった気圧計校正装置
(手動ポンプ、パイプレイアウト、供与予定気圧計準器)



上：アスマン（通風式乾湿計）とAWS（総合気象観測システム）センサー比較



下：風速計保守見学



湿球用ガーゼの巻き方実習、講師、研修生

